
いつかどこかで (I don ' t forget you ~ パラレル)

折原奈津子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかどこかで（I don't forget you）パ
ラレル）

【Nコード】

N3366Y

【作者名】

折原奈津子

【あらすじ】

完結済みの連載 I don't forget youのパ
ラレルです。

大好きでずっと一緒にいられると思っていた幼馴染が、留学先のサ
ンフランシスコで行方不明になって…。

でも諦めたくない。

きつと会えるって信じてる…。

（前書き）

某出版者様との別作品の出版のお話を頂いた時に、書いてみて欲しいと言われたSSです。

I don't forget youでは違う男性とくつついたので、パラレルとして書いてみた作品です。

結局出版のお話は、折原の都合で流してしまいましたので、未発表作品になります。

子供の頃の夢は、真っ白いドレスの花嫁だった。

相手は好きだった、幼馴染の櫛…。

「お前が二十五歳になっても独身だったら、俺が貰ってやるよ。その時は俺がドレスのデザインをしてやる」

アメリカに留学が決まり、通っていた大学を休学する櫛がそう言っただ。

「アメリカで何の勉強をする気なの？」

そう訊ねると、笑って「デザインの勉強」と言った。

あたしはそれを信じて待とうと思った。

櫛も極たまに、日本時間の夜8時頃になると、電話をかけてくれた。アメリカ西海岸からの国際電話は、そう安くはない。

だから頻繁にはないけれど、声を聞かせてくれた。

留学して一年後に、アメリカの情勢が悪くなったことで、日本での大学課程を済ませるために一時帰国した。

…帰国したと言っても、東北のM大に通っており、あたしは東京の衣料品メーカーに勤務していた。

だから会えるのは、大型連休の時だけ。

東京まで愛用の青いハーレーで帰ってくる櫛と、櫛の欲しかった食器やファブリックを土産に新幹線に乗るあたし。

お互いが交互に、相手の暮らす街まで出向くのが、言葉にしたわけでもないのにルールとしてそこにあった。

櫛のスケッチブックは、あれからもずっと櫛の両親の住む家のアトリエにある。

アメリカに戻り、デザインの勉強を続けてもうすぐ卒業という時。卒業制作のための写真を撮りに出掛けた櫛は、愛用のハーレーを残して姿を消してしまった。

横転したハーレーの傍には、明らかに血痕があり…事故にあったのは間違いないのだろう。

でも、櫛だけがいなくなってしまった。

あたしの元に届いた手紙には「もうすぐ卒業。帰国したら、お前に会いに行く。待ってるよ、蘭」とだけ書いてあった。

「蘭ちゃん、そろそろ櫛を忘れてお嫁に行かなくちゃね」

櫛の母親にそう言われた。

でも、あたしの中の櫛は、まだいなくなっていない。

今でもひよっこり、帰って来そうな予感がしていた。

そしてあたしは、留学を決めた。

櫛の暮らしていた、西海岸の街へ…。

この街にいれば、いつか櫛に会える気がして。

この街のどこかで、ばったり会えるような気がして。

優しい目をした笑顔の櫛に、きつとまた会える気がして。

「おばちゃん？ うん、元気だよ。ちゃんと食べてるってば…。英語もなんとかなってきたから、友達も増えたし…心配しないで」

櫛の母親からは、時折電話がかかってくる。

電話代も高いから、早々に切るようにしているけれど。

今日も電話を切った後、あたしは櫛が消えた所へ出掛けた。

なんとなく…予感がして。

いつかどこかで、櫛に再び会えると信じていた。

「…懼？」

ハーレーの倒れていた所に、立っている後姿…。

凄く懐かしくて、逢いたかった人の後姿だ。

振り向いたその人の、目が大きく見開かれる。

間違いない…生きててくれた！

きつと逢えると、心のどこかで信じていた。

今度は離れないように…広げられた両腕の中に、あたしは迷わず飛び込んだ。

（後書き）

文字数が決められていたため、こんな感じの短編になりました。
（制限は原稿用紙4枚でした）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3366y/>

いつかどこかで（I don't forget you ～パラレル）

2011年11月8日01時07分発行